

煙と兄弟

小川未明

青空文庫

うすぐもりのした空を、冷たい風が吹いていました。少年

は、お母さんの、針仕事をなさる、窓のところで、ぼんやり、

外の方をながめていました。もはや、木の葉がうすく色づいて、

秋もふけてきました。

「さつきから、そこで、なにを見ているの。」と、お母さんが、少年のようすに気がついて、聞かれました。

「ぼく、煙を見ていたの。」

お母さんは、ちよつと手を止めて、その方を見ると、となりの家の煙突から青白い煙が上っていました。

「お風呂の煙でしょう。」

それは、少年^{しょうねん}にわかつていました。彼は、^{かれ}それを知らな

つたのでありません。

「そうじゃないの。先に^{さき}出た煙^{けむり}が、あとからくる煙^{けむり}をまつていて、
いっしょに空^{そら}へ上^あがろうとすると、いじわるい風^{かぜ}が吹^ふいて、みんな、
どこへかさらつていくのだよ。だって、同じ木^{おな き}から出^でた兄弟^{きょうだい}
だろう。かわいそうじゃないか。」と、少年^{しょうねん}は、いいま
した。

お母^{かあ}さんは、しばらく、煙^{けむり}を見^みていました。人間^{にんげん}にたとえれ
ば、手^てをとり合^あつて、おぼつかなく、遠^{とお}い道^{みち}をいくようです。

「そう考^{かんが}えるのが、正^{ただ}しいですよ。どこの兄^{きょうだい}弟^{だい}も、やさし
いお母^{かあ}さんのおなかから生^うまれて、おなじ乳^{ちち}をのんで、わけへだ

てなく育そだてられたのです。それを大きおおくなつてから、すこしの損そ得とくで、兄きょうだい弟なかげんかをしたり、たがいにゆききしないものがあれば、また中なかには、大恩だいおんのある、母ははおや親なかをきらつて、よせつけないものがあるといえますから、世よの中なかは、おそろしいところですね。」と、なにか深ふかく感かんじて、こういった、お母かあさんの目めには、光ひかるものがありました。このとき、

「ぼくは、そんな人にんげん間に、ならないよ。」と、少しょうねん年ねんはお母かあさんのひざに、とびつきました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 14」講談社

1977（昭和52）年12月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「太陽と星の下」あかね書房

1952（昭和27）年1月

※表題は底本では、「煙《けむり》と兄弟《きょうだい》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2019年2月22日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

煙と兄弟

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>